

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部1年		学期及び曜時限	後期	教室名	教室及び4F基礎医学実習室
担 当 教 員	左 明					
実務経験と その関連資格	1986年医科大学卒業後(医学学士)、医科高等専門学校で教員として9年間勤務、統計学や栄養学などの科目を担当。 2000年、神戸大学医学研究科で医学博士号を取得。 2003年から3年間、受託研究員として、大阪大学大学院歯学研究科に在籍、コメディカルの解剖教育に役立つ教育方法を確立 医療系専門学校の専任講師として、看護・理学療法士・作業療法士・視能訓練士・言語聴覚士・柔道整復師・鍼灸師学科などの解剖学・解剖生理学を22年間担当、現在に至る。 日本解剖学会会員 「早わかり解剖学ハンドブック」(単著)など医学の専門書を6冊ほど監修や執筆(共著含む)					
《授業科目における学習内容》 作業療法士にとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。 神経系の構成と機能を説明できる。 内臓系と感覚器系の構成と機能を説明できる。						
《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験：基本は100%。ただし、「2～4」の項目で増減する。 2. 小テスト：90点以上の場合、一回に付き2ポイントを定期試験にプラス。ただし、100点に達するまで。 3. 課題についての発表：正しく発表できた場合、一回に付き1ポイントプラス。ただし、60点に達するまで。 4. 授業態度が悪い場合、一回に付き1ポイントマイナス(10ポイントまで)。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 野村 巖編 医学書院 早わかり解剖学ハンドブック 左 明著 ナツメ社						
《授業外における学習方法》 教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。固有名詞にいては声を出して、耳で覚えること。 授業終了後に問題集と国家試験の過去問(事前配布)を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問して解決すること。積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。						
《履修に当たっての留意点》 ①知識は楽にして身に付かない。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要。 ②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなるよ。 ③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れない。本気にプロを目指しているのであれば、頑張れ！						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。 骨格模型にテープで主な筋肉を表現し、その作用と神経支配を説明できる。		教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	筋系各論(三)下肢の筋 その3： 大腿の屈筋と下腿の伸筋・腓骨筋群				
第2回	授業を通じての到達目標	筋肉模型で個々の筋を同定できる。 骨格模型にテープで主な筋肉を表現し、その作用と神経支配を説明できる。		教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	下肢の筋 その4： 下腿の屈筋 その5： 足の筋				
第3回	授業を通じての到達目標	体循環と肺循環、動脈と静脈と毛細血管、動脈血と静脈血、吻合を述べることができる。 心臓の所在と大きさ、心臓壁と心膜の構造を説明できる。		教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	循環器系総論：血管の構造・吻合・体循環・肺循環 循環器系各論：心臓 その1：心臓の所在と大きさ、心臓の壁、心膜				
第4回	授業を通じての到達目標	心臓の構造と分布する血管、心臓における血液の流れを説明できる。心臓の前頭断、4種の心弁膜がわかる水平断を図示できる。		教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	循環器系各論 心臓 その2：心臓の外景と内景、心臓における血液の流れ、心臓の弁				
第5回	授業を通じての到達目標	心臓の構造と分布する血管、心臓における血液の流れを説明できる。心臓の前頭断、4種の心弁膜がわかる水平断を図示できる。		教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。	
	各コマにおける授業予定	循環器系各論 心臓 その2：心臓の外景と内景、心臓における血液の流れ、心臓の弁				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	冠状動脈の分枝とその分布域、心臓の刺激伝導系を説明できる。 心臓の模型で、主な構造物を同定できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	循環器系各論 心臓 その3:心臓の栄養血管 心臓の刺激伝導系 模型で心臓の構造確認		
第7回	授業を通じての到達目標	大動脈と主な分枝を図示し、分布域を概説できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	循環器系各論 動脈 その1:大動脈とその分枝、頸・顔面部の動脈		
第8回	授業を通じての到達目標	頭頸部、上肢と下肢の動脈を図示し(特に脳の動脈を図示できる)、分布域を概説できる。 動脈の拍動について、自己触診ができる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	循環器系各論 動脈 その2:脳の動脈、上肢と下肢の動脈		
第9回	授業を通じての到達目標	静脈系の特徴を説明できる。 硬膜静脈洞を図示し、各部の名称を説明できる。 上大静脈と下大静脈の根枝を概説できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	循環器系各論 静脈 その1:静脈系の特徴、硬膜静脈洞 上大静脈、下大静脈、奇静脈系		
第10回	授業を通じての到達目標	主な状静脈を図示し、奇静脈系・四肢の静脈・門脈を説明できる 胎児循環における構造上の特徴を略説できる。 リンパ管系の構造と機能を略説できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	循環器系各論 静脈 その2:上肢と下肢の静脈、門脈 胎児循環 リンパ管系		
第11回	授業を通じての到達目標	神経系の区分と神経系の細胞を略説できる。 末梢神経系と中枢神経系の構成を説明できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	神経系総論(一):神経系の区分と神経系の細胞 末梢神経系と中枢神経系の構成		
第12回	授業を通じての到達目標	神経系の発生を略説できる。 脳室系の構造、髄膜の構成と機能を説明できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	神経系総論(二):神経系の発生と脳室系 脳脊髄液と髄膜		
第13回	授業を通じての到達目標	大脳の所在と構成、大脳半球表面の区分と皮質の機能局在、大脳基底核と髄質の構成を説明できる。 代表的な大脳の水平断と前頭断を図示でき、かつ説明できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系(一):大脳		
第14回	授業を通じての到達目標	間脳と脳幹の外景をイメージできる。 間脳の構成と機能を説明できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系(二):大脳		
第15回	授業を通じての到達目標	習った主な構造物を、脳模型で同定できる。 脳室系、脳の血管も説明できる。	教科書・参考書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達と問題を出し合いながら学習すること。
	各コマにおける授業予定	中枢神経系(三):間脳と脳幹の外景 脳模型での実習		